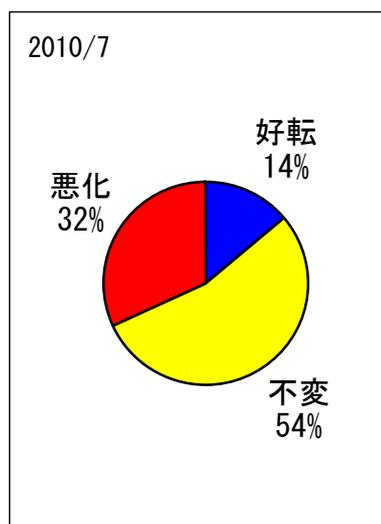
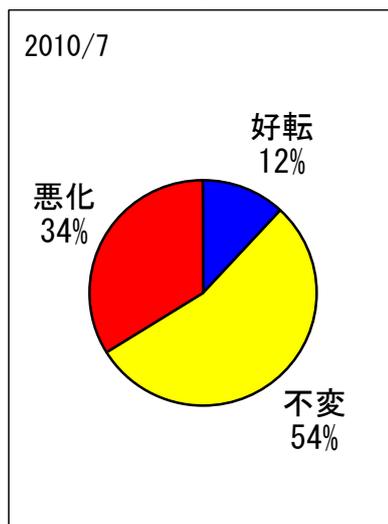
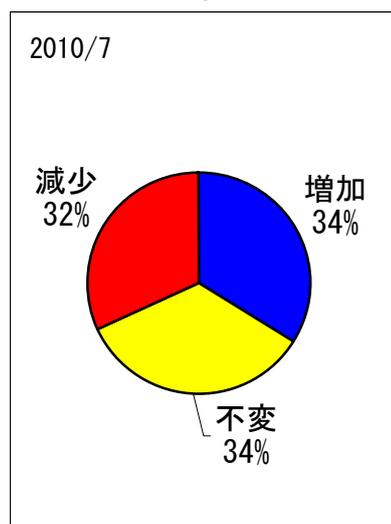
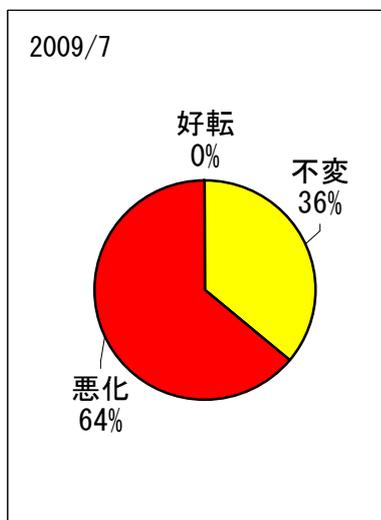
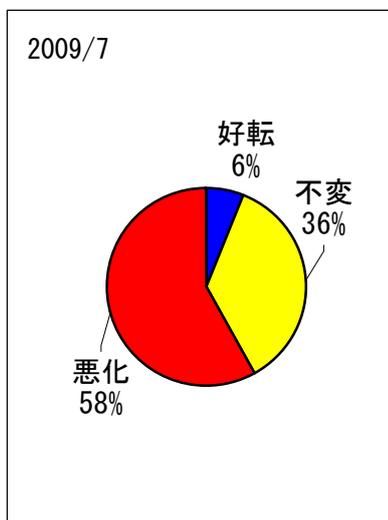
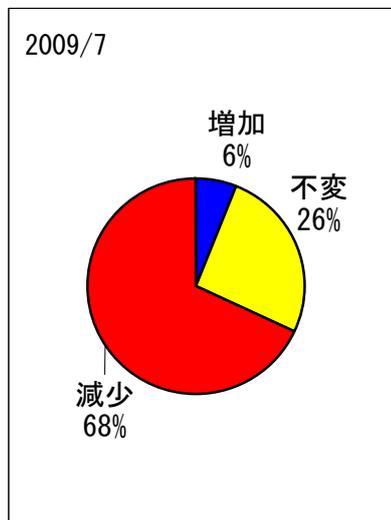


データから見た業界の動き(平成22年7月分)

売上高 (前年同月比)

収益状況 (前年同月比)

景況感 (前年同月比)



■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

区 分	製造業			非製造業			合 計		
	09/7	10/6	10/7	09/7	10/6	10/7	2009/7	2010/6	2010/7
売 上 高	-75	0	5	-53	3	0	-62	2	2
収 益 状 況	-70	-20	-10	-40	-30	-30	-52	-26	-22
景 況 感	-70	-20	0	-60	-40	-30	-64	-32	-18

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100)=D.I値

■ 概 況

本県の7月の景況では、全業種のD I値が、売上高+2（前年同月比+60）、収益状況-22（前年同月比+30）、景況感-18（前年同月比+46）と前年同月比では全項目でポイントが改善。業種別のD I値で見ると、製造業は、売上高+5（前年同月比+70）、収益状況は-10（前年同月比+60）、景況感は±0（前年同月比+70）と前年同月比・前月比ともにポイントが順調に改善している。非製造業のD I値は、売上高±0（前年同月比+53）、収益状況-30（前年同月比+10）、景況感-30（前年同月比+30）と、製造業と比べると前年同月比での改善幅はやや小さいものの全項目で改善している。

7月の月例経済報告から国内の状況を見ると、「企業の業況判断は改善している」「個人消費は持ち直している」とし、6月と同様、「景気は、自立的回復への基盤が整いつつある」としながらも、「中小企業を中心に先行きに慎重な見方となっている。」と報告されている。

7月の県内の景況では、特に製造業の前年同月比で、大幅にポイントが改善していることが分かる。その中で売上高のD I値はプラスに転じている。非製造業では、前月の報告のような大きな動きはないものの、製造業と同じく売上高は、大きくポイントを改善させており、全体では、引き続き、業況判断の改善が進んでいると見受けられる。

一方、情報連絡員から報告される各業界の現状や見通しなどのコメントでは、D I値の改善とは違った厳しい内容も多く、中小企業の景況感を数値的な見方だけで判断するには難しい時期にある。

■ トピックス

今回7月の調査での政府や国・県など行政に対する意見要望は、景気回復へ向けての経済対策実施を望む声が多数を占めた。製造業からは「党派を超えた緊急経済対策を行って欲しい」「融資支援だけでなく、受注(仕事)の拡大や確保できる対策が必要」(電気機械器具)

非製造業からは「情報面、資金面の支援措置の拡充」(小売業)「効率的な規制緩和と上質な資格要件の徹底が必要」(設備工事業)「1日も早い早期の景気回復を要望」(宿泊業)(旅客運輸業)大企業を中心とする景気動向は、回復基調にあるとされているが、中小企業にとっては厳しい経済情勢が続いており、支援措置等、中小企業対策が必要となっている。

■ 業界の声

【製造業】

- 食料品（水産物加工）／ギフト関連は百貨店、量販店が不振で前年比7%減。ゆうパックのカタログ販売が好調で前年比70%増となり、全体では前年比101.4%を確保。高齢、若年層でカタログ、インターネットでの購入が普及してきている。
- 食料品（洋菓子製造）／百貨店、量販店の販売が低調。特に前半は梅雨が影響し、ゼリーなどが不振で、全体では前年比92%の売上だった。
- 食料品（製麺）／土産では、ほうとうは夏の出荷が減るため、おざらという夏向きの商品が主となる。夏休みシーズンに入ってからPAやSAで良く売れるようになってきた。
- 食料品（ワイン）／7月下旬に開催された国産ワインコンクールの結果が8月に入り発表される。結果如何で各メーカーの荷動きが出てくる。
- 繊維・同製品（織物）／猛暑が続き、パラソル、晴雨兼用製品などの販売は久しぶりに活況を呈しているが、ほとんどが中国製で産地には見返りがない。納入単価の引き下げの要求が強く、中国に発注が流れることが増えてきた。整理加工業者と共同で機能製品を開発する会社もある。
- 木材・木製品製造／回復傾向にはあるが、個人向け住宅材料が動かず、加工賃は良くない。収益性が悪く、資金繰りに苦慮している。
- 紙・紙加工品／原燃料価格は上昇基調だが、円高で救われている状況。
- 印刷／状況は悪すぎて判断が付きにくい。明るい材料が無く、これから先ますますの悪化を覚悟している。
- 窯業・土石（砂利）／公共事業、民需とも多く出ており、本年4月以降の出荷量は順調に推移している。今後についても現在の発注されている工事量から見て、ある程度の売上高は確保できると予想。ただし売上が増加しても特採料が高いことがネックであり、資金繰りの悪さは依然として改善されていない。
- 窯業・土石（生コン）／複合商業施設の工事が忙しくなり、リニアのトンネル、橋の工事などが動き出したことにより出荷が増えた。ただし、甲府駅北口再開発やNHKの工事などではアウトサイダーとの単価競争の問題が出てくる。
- 鉄鋼・金属(1)／現在はアジア諸国により少し回復しているが、中国にも陰りが見えてきた。100%回復するには、アメリカ経済が回復するしかないと思われる。
- 鉄鋼・金属(2)／業績の良い企業でも昨年と同時期と同等程度であり、景況自体は決して良くはない。
- 鉄鋼・金属(3)／中国、東南アジア等と取引のある企業はある程度良いが、各社バラツキがある。
- 一般機器(1)／一部を除き、在庫がなく、製造が間に合わないほど忙しい。
- 一般機器(2)／仕事量は出ているが、価格が安く経営は苦しい。先の見通しなど全く立たず廃業を考えざるを得ない状況にある。（リーマンショック以前に比べ、-60%の仕事量）
- 電気機器／業種により大きなバラツキがある。先行きは不透明。
- その他（貴金属(1)）／競争激化のため、利益の幅が激減している。特にネット関係に顕著。オークションに客が慣れており、全て比較の対象になっている。
- その他（貴金属(2)）多少の増減はあるが、売上は確実に減っており、もはや限界。廃業者も多く、地場産業は衰退する一方。

【非製造業】

●卸売（塗料）／当社の取引先では輸出関連産業の景気は上向いているが、国内需要関連は低迷している状況である。特に建築関係を中心に価格競争のあおりを受け四苦八苦している。建設産業の景気が良くなると国内景気の回復とは言えない。これだけ長期間にわたり国内景気が低迷していると、この状況を当たり前と考え、この中で生き残る方策を講じるしかない。

●卸売（紙製品）／前月と同様、古紙の発生が落ち込んでいるため、仕入れ競争が激化しつつある。特に県外業者の進出が懸念される。

●卸売（ジュエリー）／小売市場では底を打ったとの見方もある。メーカーにおいては対前年の売上高の落ち込みがやや改善してきた会社も出てきている。

●小売（SC）／好調店舗と不調店舗があり、7月においては、かろうじて売上をほぼ前年並みとすることができた。空き店舗も出る中、新規出店もかろうじてある。今後はテナントミックスを積極的に行い、店舗入替をすすめて行く事が活性化策であると考え。新陳代謝を恒常的に行う事こそが、生き残る道であると思う。

●小売（青果）／今年の野菜・果実の出荷の減少は猛暑の影響であり、地元生産品は減少している。

●小売（食肉）／口蹄疫の影響がギフト商戦を直撃。昨年までの産直生肉ギフトが低調。

バーベキューも前半の天候不順と後半の暑さで昨対15%の減少。売上の低下と同時に昨対で電気代が20%近く上昇し、収益を圧迫。8月も期待は薄い。

●小売（自動車）／9月に補助金が打ち切りとなる。10月以降の見通しがつかず、30%程度の落ち込みは懸念される

●小売（電機製品）／7月中旬からの猛暑日の連続でエアコン、冷蔵庫、テレビ等が、予想以上に売上増となった。商品別ではテレビ30%~40%伸長、エアコン60%伸長、冷蔵庫30%伸長、加えてエアコン、冷蔵庫の修理件数も非常に多く、組合員も毎日の作業に忙殺されている。「エコポイント」効果に加えて猛暑も追い風となり順調以上に恵まれた1ヶ月となった。反面、商談に時間のかかる太陽光発電、エコ給湯、IHヒーター等は減少傾向にある。デジタル放送への切り替えが1年を切り、7月上旬より組合内部に設置しているナビダイヤル「デジタル110番」への相談件数が増加してきた。

●小売（事務機文具）／依然として景気が低迷している中、特に通信販売の事務用品取扱が中小企業まで浸透してきており、益々収益率が悪化している。店舗販売業者数は最盛期の半分まで減っているため、何とか昨年並みの収益は確保している。大型の店舗では好転が伺える。

●小売（石油）／7月のガソリン市況は中東原油のドバイ原油が小幅下落気味に推移する中で、各SSは1㍗あたり130円前後で一進一退の販売をしており、販売価格は横ばいの状況。8月も原油価格の下落と為替レートの円高ドル安により若干値下がりするものと予想される。

●商店街(1)／ボーナスの減少など消費者の購買力が低下している。高級品を中心に動きが鈍い。夏のシーズンは飲食を中心に街は静かになる。8月中旬から秋物の動きに期待。

- 不動産取引/地価の下落が続いており、住宅着工戸数の減少しているなか、住宅ローンのフラット35の取扱は増加している。金融機関の住宅ローンは貸し出し審査が厳しすぎるのではないかと考える。
- 宿泊業(1)/7月は、各種大会が開催され、その宿泊の受注があり、厳しい状況の中でも例年並みの売上を上げることができた。中国人のビザ発給が緩和されたことにより、現在の5倍の観光客の来日が予想されるため、中国語表記のパンフレットを充実させるなどして受入準備を整えている。
- 宿泊業(2)/訪日外国人の受入などと併せて、インターネットの更なる普及により、新しい顧客の取り込みが多少の増加の要因である。今後価格の低下に加え、経費の上昇(税金、社会保険料の負担増加)でますます経営が厳しくなることが予想され、その中でサービス(おもてなし)を求められ、中小零細経営者にかかる負担は増大する。
- 宿泊業(3)/高速道路の無料化実験で休日の通行量が2割程度増加したが、まだ宿泊客の増加には結びついていないようだ。日帰り客は増加している。
- 美容業/家計費節約のため、家庭でヘアカラーなどを済ます人も多くなってきた。7月下旬は梅雨明け猛暑の影響で入店客数が2割ほど増加している。しかし、高単価のパーマなどは少なく、カットカラーなど低価格の美容施術のみが多い。また、美容師を志す方の首都圏へ上京志向が非常に強く、美容専門学校の来年度の入学者は非常に厳しい。(ここ2、3年は定員割れが続いている。)
- 建設業(総合)/公共工事の今後の動向については未だ不透明感がぬぐえず、業界内に不安が漂っている。ハコモノについては大型物件もあるが、県外大手ゼネコンとのJVであるため、県内への効果は薄い。
- 建設(住宅関連)/新築工事・リフォーム工事とも受注見込みが少なく、今後の見通しは悪い。住宅エコポイント制度ではリフォームでサッシ改修工事がある程度の仕事が出ている。
- 建設業(型枠)/4月頃より甲府市内の学校の建替や耐震工事などが一斉に出てきた。また民間でも大規模商業施設の工事が始まった。近年では記憶がないほど忙しく、外注に出しつつ対応している状況。ただし工事単価はピーク時の1/3程度であり、利益率は低い。今夏をピークに仕事は出ているが、それ以降に不安。
- 建設業(鉄構)/見積物件数は増加しているものの、鋼材価格の変動により受注が決まらない状況が続いている。特に鉄骨単価の採算性悪化が日々増している。
- 設備工事(電気工事)/ようやく公共工事が始まった。しかし相変わらず過当競争が続く、収益の圧迫はさらに続いている。民間工事での果てしない競争は、大きな決断とリスクを伴う。事業の存続を考え、しっかりと自社の方向性を打ち出さなければならない。
- 設備工事(管設備)/組合の共同購買事業(水道工事の材料販売)と新築住宅等の水道局への申請図面作成代行業務は、特に新設住宅着工戸数に影響されるが、5月発表の2009年度の県内数値は過去最少の4,308戸。また、分譲マンションの着工はゼロと落ち込みの著しい発表があり、今年度も非常に厳しい状況が予想される。
- 運輸(タクシー)/甲府駅北口周辺整備が一部整い、タクシー乗り場も新しくなり、今後の需要増に繋がることに期待。
- 運輸(バス)/仕事量も若干少なくなり、軽油も値上がりしたため一層苦しい経営を強いられている。夏期は冷房を使うため軽油代金の高止まりは大きな痛手。
- 運輸(トラック)/前年度に比べて若干好転しているが、実質的な好転とは言いがたい状況である。今後の見通しについては、全く予測出来ない状況である。